



かしのみ通信

H28—第7号 (累計18号)
平成28年11月4日
青森工業高校定時制生徒会



シリーズ 螢雪七十年

第2回 ～バザー・文化祭～

文化祭の前身は「バザー」といわれ、本校では大正14年に最初に行われたのが最初とされています。生徒が製作した作品を普通の半値以下で販売され、開門時間前から長蛇の列ができたそうです。時代の変化につれ家具や日用品が安価で出回るようになると、バザーの意義も薄れ、工業高校ならではの実習設備展示や生徒の発表がメインとなる現在のよう文化祭へと形をかえていきました。青工祭の歴史はバザーが時代を重ね変化したものです。今年もにぎやかに「青工祭」が開催されました。今後またどのように変化していくのでしょうか？

青工百年史より



2学期のメインイベントともいえる文化祭が終了しました。肌寒く、時折小雨も降る悪天候となりましたが、1年次の科展示&バザー、2年次のこんにやく、3年次のフランク、4年次の焼き鳥、いずれも生徒が中心となり、準備から運営までを行い、大成功だったように思えます。また、のど自慢や仮装コンテストなどイベント参加のほり旗製作など積極的に参加できた文化祭でした。2日間お疲れ様でした。

青工祭 2016
〜青工魂〜



卒業生の活躍

10月28日(金) 東奥日報

須藤ゆかりさん (H12 定時制インテリア科卒)

1級技能検定に合格 豊職人須藤さん本県女性で初

「目標は『現代の名工』」

青森市の豊職人須藤ゆかりさん35が、国家資格の1級技能検定(畳製作)に合格した。県職業能力開発協会によると、女性の畳製作の1級技能士は本県初で、東北では確認できる限り福島県の人だけに次いで2人目という。須藤さんは「目標は『現代の名工』」と話、さらに抱負を語っている。

須藤さんは中卒卒業後、青森工業高校定時制に通い、2級技能検定に合格した。卒業後、そのままだけで畳内装(畳敷き)の職人として、本格的に技術を学んで、アルバイトで始めた「志」もともと職人の仕事に慣れ度だったが、少しづつ



「40代で『現代の名工』に選ばれたい」と目標を掲げる須藤さん

目標の名工など、「私実現したいことは1級が必要だった」という。8月に実施された1級の実技試験は、制限時間内に決められた課題を手縫いで正確に作業する必要がある。須藤さんは練習の成果を発揮し、見事合格した。「部屋によって畳の寸法の必要が減少、さらに材料

【今後の行事予定】

11/16 (水)

生徒会役員選挙

11/17 (木)

計算技術検定4級

11/18 (金)

計算技術検定3級

11/28 (月)

期末考査